

「七月の壁の影」会場マップ “Behind the wall of July” Venue Map

- 高架下エリア常設作品
Permanent artworks in beneath the railway
- i インフォメーション
Information points

インフォメーションにてマップを配布いたします。まずはこちらへお立ち寄りください。
Please come to our information point to pick up a map of the exhibitions on arrival.



高架下ロックカク Rokkukaku Beneath the Railways

瀧健太郎《ドラウニング・スカル》(2023)
Kentaro Taki《Drowning Skull》(2023)

家電廃材、木、単管パイプ、プロジェクター、スピーカー
Waste home appliance, wood, mono-pipe, projector, speaker
10m × 4m × 2m

廃棄された家電を解体して制作した立体の上に、現地で撮影したイメージや記号をランダムに投影する。モンスターか宇宙船のような巨大なオブジェが黄金町に毎夜出現する。



八番館 1階 Hachibankan, 1st floor

平山好哉《untitled》(2023)
Yoshiya Hirayama《untitled》(2023)

映像 Video
16分51秒 16 min 51 sec

第三次世界大戦後の近未来が描かれたSF映画、フォトロマン「ラ・ジュテ」(Chris Marker, 1962)からインスパイアを受けた作品。約7年間のドイツ滞在中に撮影したプライベート写真が、音の記憶あるいは男女のウイスキーヴォイスによってつなぎあわされていく実験映像。一見、乱雑に展開されるヴィジュアルのなかにプライベート写真特有の連続性が浮遊する。

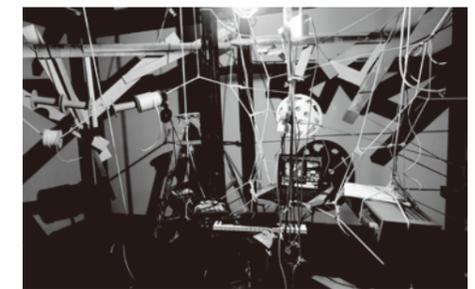


八番館 2階 Hachibankan, 2nd floor

中村邦生《巣トレーナーズハウ巣》(2023)
Kunio Nakamura《Nestrainer's House》(2023)

廃材、ロープ Scrap material, ropes
八番館2階全体 The entire Hachibankan 2F

八番館2階に、廃材などをロープで強く引っ張り(strain / 引っ張る)ながら蜘蛛や鳥のように巣を作る。そして自身をストレーナー(strainer / 濾過器)として街で生活しながら抽出された“何か”が巣に残っていく。そしてさらに、作者は各地で巣を作っている巣トレーナー……会期を通して空間が変化していく様子を目撃してほしい。



地域防犯拠点ステップ・スリー、ウィンドウギャラリー Step Three, Window Gallery

千原真実《風景P#3》(2023) Mami Chihara《Landscape#2》(2023)
「ニュー・ニューウェーブ・フクオカ」のフライヤー、アクリル絵の具
Flyer for "New New Wave FUKUOKA", acrylic paint

千原真実《風景P#4》(2023) Mami Chihara《Landscape#3》(2023)
スタジオのカレンダー、アクリル絵の具
Calendar of the studio, acrylic paints

千原真実《風景P#5》(2023) Mami Chihara《Landscape#3》(2023)
カレンダー写真、アクリル絵の具
Calendar photo, acrylic paint



ステップ・スリー裏 Behind Step Three

志村信裕《赤い靴》(2009)
Nobuhiro Shimura《Red Shoes》(2009)

映像インスタレーション、サイレント Video Installation, Silent

「黄金町バザール2009」の開催と同時に設置された本作品は、初黄・日ノ出町地域防犯拠点ステップ・スリーの恒久作品として展示の継続が決定した。防犯の赤色灯を想起させる赤い光が、こどもから大人まで、誰もが同様に楽しめる光の世界を描き出す。暗い路地を明るく照らし、人の往来を誘発する。アート作品がまちの中で日常的な機能を持ちうることを実証した作品となった。(黄金町アニアルレポート2009より)



再展示
Re-exhibit